



親愛なる皆さまへ

2026 年が、新しい本のように私たちの前に開かれています。静かで、心躍る、可能性に満ちた年。ページの余白には、物語だけでなく、皆さまの身近な現実からうまれる決意、希望、秘めた願いが書きこまれることでしょう。新しい年を皆さまと共に迎えるにあたり、心に留めておきたいことがあります。それは、みんなで紡ぐ物語こそ、このうえなく力強い章になるということです。

今日は、報告書や決議のような形式ばった言葉ではなく、心からのあたたかな言葉で皆さまに感謝を伝えたいと思います。皆さまは、国や文化を越えて子どもたちに本を届けるという、時間がかかり、忍耐を要する、血の通った活動を続けてくださっています。晴れやかとはとてもいえない場所——がたつく椅子が並ぶ教室、破壊後に再建された図書館、一冊の本が小さいながら信頼できる友となる家庭など——で行われている活動も多々あります。けれども、そういった場所にこそ、IBBY の理念が生きているのです。

今の子どもたちは、先が読めない不安な社会で育っています。このような時にこそ、物語が重要です。よい本は、子どもたちの逃げ場となるだけでなく、子どもたちを認め、受け入れてくれます。疑問をもつことは大切で、想像は力になると教えてくれます。私はこのような状況下で子どもたちを訪ね、言葉を交わし、本を読みあいながら実感しました。本がふさわしい時にふさわしい人の手に届くことが、心の癒しになるのだと。

すべての支部の皆さま、共に歩む仲間として、2026 年の「5つの願い」を分かちあいませんか。「5つの願いは」、皆さまがそれぞれの立場でもっとも重要だと思う、希望や要望や決意などの5項目です。それは現実的、あるいは空想めいた願いかもしれません。切実な要求、あるいは心に秘めた望みかもしれません。それぞれの支部で今年の道しるべとなる5つ星です。どうしても守りたいもの、築きあげたいもの、もっとも効果的だと思われる支援などについて考えてみてください。会長の私に宛てて送ってくだされば、それが

IBBYとしていま取り組むべきことを知る手掛かりとなります。さらにIBBYの理念に賛同する支部の皆さまの、現状と夢に根ざした活動を共に進める礎ともなります。

私たちがこの一年を強い心で、思いやりをもって歩いていくことを願っています。強い心で、だれもが本を読める社会が広がる未来を思い描き、それを貧困、紛争、障がい、無関心により困難に追いこまれた子どもたちにまで広げ、思いやりをもって共に活動しましょう。人の話をよく聴き、違いを尊重し、共同作業は（読書と同じく）信頼の上に成り立つことを心に留めながら。

時間のかかる仕事ですが、願いは叶うと信じつづけましょう。本は一晩で世界を変えるものではありません。けれども読者に変化をもたらし、時を経て読者が世界を大きく変えます。みんなが読む物語、プログラムの継続、読書の輪に迎えいられる子どもたち——これらが静かに積重なり大きな力となったとき、願いは叶い社会は変わります。

本と、子どもたちと、会員どうしの穏やかな対話が続きますように。皆さまの願いを詳しくうかがい、心に留めながら形にしていけることを楽しみにしています。

皆さまとともによりいっそう物語を信頼し、私たちがよせる信頼が世界中の子どもたちの暮らしの中に見えてくる。2026年がそのような年になることを祈っています。

感謝と連帯の気持ちをこめて、子どもと本の出会いの意味を信じつつ……

IBBY 会長 バサラット・カズィム
2026年1月9日 ラホールより